

情報科学専門学校

平成 25 年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価会実施要領

日時	平成 26 年 5 月 26 日(月) 16:30~18:30	
場所	情報科学専門学校 8 階 801 教室	
参加者	学校関係者評価委員	小川名 剛彦 (神奈川県情報サービス産業協会 常務理事)
		根上 生也 (横浜国立大学大学院 教授)
		長谷川 長一 (株式会社ラック プロフェッショナルフェロー)
		船橋 憲正 (神奈川県立横浜青陵総合高校 学校長)
		松岡 秀和 (株式会社ユービーセキュア 取締役専務執行役員/本校卒業生)
	本校教職員	岩崎 文裕 (学校長)
		川上 隆 (教務部長)
		伊藤 泰宏 (教務部 教務課 課長)
		藤田 等 (教務部 教務課 主事)
		山上 紀彦 (教務部 教務課 課長補佐/1 年次学年主任・資格対策担当)
		小倉 正己 (教務部 教務課 課長補佐/3・4 年次学年主任・就職指導担当)
		武藤 幸一 (教務部 教務課 課長補佐/学内システム担当)
	資料	・平成 25 年度自己点検評価報告書 ・当日説明用スライド資料

2. 学校関係者評価会実施の背景と目的

- ・平成 26 年度より以下の学科が文部科学省より「職業実践専門課程」の認可を取得。
 - －情報セキュリティ学科
 - －ネットワークシステム科
 - －情報処理科
 - －Web 技術科
- ・認可を取得した学科は年に 1 回以上学校関係者(企業等委員、卒業生、保護者、地域住民等)による評価会を実施し、教育活動・学校運営の改善を行うことが義務付けられている。
- ・既に実施した平成 25 年度自己点検評価の結果を踏まえ、ご評価いただきたい。
- ・当校の職業実践的な取り組みについて、朝日新聞から取材を受け全国紙に掲載された。これまで、地道に続けてきた取り組みが徐々に評価されるようになってきた。今回の職業実践専門課程認可をキッカケに、これまで以上に産業界のニーズや最新の技術動向を踏まえたカリキュラムを開発し、これからの日本を支える人材を育成していきたい。そのためにも、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。

3. 学校関係者評価を踏まえた次への取り組み

- ・情報端末の多様化、IoT と制御システムなどベテランエンジニアでは対応できない領域のカリキュラムを強化するため、教員の専門性を向上させるべきとの指摘を受け、「ビッグデータ分析のためのデータサイエンティスト養成講座」、「今どきの IT システム開発とこれからの IT エンジニアに必要な技術」等の技術系研修を技術系の全教員必修として実施することとした。
- ・企業連携開拓のキッカケとしてコンテストが有効であるとの指摘を受け、学外のコンテストへの応募を促進することとした。また学内コンテストにおいても企業関係者を審査員として依頼し、継続的に情報交換することとした。
- ・在校生の状況把握、退学率の低減を進める上で、日常からのコミュニケーションが重要との指摘を受け、1 年次学生を対象に毎週金曜日に週間の活動記録を提出させ、それに対して担任教員がフィードバックすることとした
- ・就職内定者を中心に「就職委員会」を組織し、学生の履歴書・エントリーシートの相談を行える体制とするほか、全学生対象の就活合宿に先輩学生を必ず参加させることとした。

4. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

4-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・人材育成像は定められているか ・学校における職業教育としての特色は明確か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが生徒・保護者に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高度な技術力の習得」、「文章作成能力の育成」、「豊かな人間性の涵養」を開校以来の理念として教育活動を展開している ・神奈川で最も信頼される専門学校として、「社会が求める実践的スキル」と「人間力」の両面を備えた人材の育成に努めている ・最新の業界ニーズを組織的に集約する仕組みの構築が今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション能力」を育成する目的でゼミを取り入れてはどうか。大学のゼミでは先生があえて学生のことを「察しない」というコミュニケーションを行っている。「必要十分な情報が提示されているか?」、「根拠は十分か?」をゼミでチェックしている。 ・SSH(Super Science High school)での実践事例もある。全学的に展開してはどうか。

4-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・目的や事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は効率的に行われているか ・人事・給与に関する制度は整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度当初に学校目標を設定し、達成責任を明確化。また、TQM手法による個人レベルの目標管理を実施。 ・また、昨年度課題であった教育活動に関する情報公開もWebで公開を実施しており、改善している ・教職員研修の件数は着実に増加しているが、教育力向上に関する研修は一律的な面がある。教職員個々の経験・スキルに応じよりきめ細やかなメニュー設定を行うことが次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報端末が多様化している。PC以外のデバイスにおけるネットワークやセキュリティをカリキュラムに入れていくと良いと思う。IoTとその制御システムなどはベテランエンジニアではついていけなくなる。これから社会に出る若いエンジニアが有利。教員研修(技術研修)のテーマとしてはそのあたりを設定してみてもどうか。

4-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確か 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期集中のユニット型授業と一般的なセメスタ授業を科目特性に合わせて配置 ・また、各科目の学習ガイドでは到達目標と単元ごとの 	<ul style="list-style-type: none"> ・神情協 IT コンテストが7月にエントリー開始となる。斬新なアイデア、社会人として凝り固まっていない自由な発想が欲しい。神奈川県では、今後の業界の先行

<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成や見直しが行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置付けられているか ・実践的な職業教育に関する授業評価の実施・評価体制はあるか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標に向け、授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか 	<p>学習課題を具体的に明示。これにより、教員・学生双方に目標意識を持たせている。日々ミニテストを実施し、理解度チェックを行い、理解が不十分な学生には当日中に補講を実施。細かな単位で PDCA を行うようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートは科目・教員ごとに実施。昨年度の結果、他教員のスコアとも比較可能。結果が不十分な場合は管理職による面談を実施し、改善を促している。 ・教員の専門性・技術レベルを定量的に評価することが次への課題。 	<p>きに危機感を持っている中堅 IT 企業が増えている。これまでは人を貸して収益を上げるというビジネスモデルであったが、今後生き残っていくためには新しいものを作らなければならないという共通認識を持っている。積極的にエントリーすることで企業との接点は拡大できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生がコンテストに参加してくれるのは企業にとって有益なこと。企業が試したいと思っていることをコンテストのテーマに設定している、多くの学生が参加することで有益なフィードバックを得ることができる。フィードバックがたまれば、社内教育にも活用できる。企業連携を強化する上では、コンテスト終了後も運営側と参加者のコミュニケーションを続けていくことが大切。 ・企業連携は就職活動、面接だけでは見抜けない学生の資質を見抜くコミュニケーションの機会として企業側にとっても有効な機会である。ただし、昼間にインターンシップを実施しようとするとう授業の関係で土日になってしまうといった問題がある。企業側と学生の時間の都合をうまく合わせることができれば、やりたい企業は多いはず。検討いただきたい。 ・Linux、PHP、Apache、MySQL 等の環境を学校が企業に提供するという形式にすれば、企業側も受け入れやすいのではないかと。また、従来は企業側から連携のテーマを提示していたが、学校側から企業にテーマを持ち込んでみても良いのではないかと。
---	---	--

4-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年就職率 95%を目標とし、H25 年度も達成。また、単純な就職率以外に専門分野への就職率もモニタリングしている。 ・学科ごとに就職およびその後に有利な資格を定め、卒業までに 90%以上学生が何らかの資格を取得できるよう指導。 ・退学率は 5%未満とすることを目標としている。退学につながる予兆を早期に発見して対策に結びつけているほか、教員対象のコーチング研修を毎年 1 回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率を低減したり、在校生・卒業生の活動状況を把握したりするためには日常からのコミュニケーションが重要。最近の初等教育では授業の感想を書かせる欄が取り入れられている。できなかつたら「できなかつた」ということを認めてあげる。それによって、コミュニケーションにつながるようにしている。 ・総合学科高校でもコミュニケーション能力の育成を重視している。「コミュニケーション」という独立した科目が設定されている。その科目の中で、将来の職種につながる「全く面識のない人」をインタビューするという課題がある。自分で電話をしてアポイントを取ってでかけるように指導している。これによって、異世代との 1 対 1 のコミュニケーションが行える力を育成することを目指している。

4-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整っているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任制により、日常の相談は担任教員が対応。その他、無記名式「相談ポスト」、臨床心理士のカウンセラーが対応する学生相談窓口を設置。 ・経済的支援策として学園の奨学金制度や学生寮完備。 ・高校との連携では、専門学校各種学校協会の活動に積極的に協力し、キャリア教育や単位互換講座を毎年実施中。 ・卒業生への支援が同窓会活動に留まるため、卒業生同士の交流を促進する機会の拡大が次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職指導においては教員が指導するだけでなく、先輩や卒業生の協力を得て行うという方法がある。積極的に活用してみてもどうか。

4-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 防災に対する体制は整備されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 一般教室は3人がけの机を2人で使用する空間を確保。全教室にプロジェクタ、無線LANを完備。 特別教室としてネットワーク教室、iscラボ、ビジネス実習室、就活カフェ、図書室、自習室、学生ラウンジを完備。 また、教室以外に専用のフットサル・バスケットボールコートがあり、サークルでの利用が活発。 海外研修・留学制度の整備が次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の取り組みについて特段の問題は無い。

4-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> 学生募集活動は適正に行われているか 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 学納金は妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報取得に当たっては、利用目的を明確にした上で資料を希望する場合に限定。 前年度課題であった、就職内定率や資格合格率は算出基準を明確化し、誤解の受けることの無いよう公開している。 カリキュラム刷新に伴う新しい専門分野や職種に関する情報を分かりやすく提示することが次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の取り組みについて特段の問題は無い。

4-8. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 財務について会計監査が適正に行われているか 財務情報公開の体制整備はできているか 	<ul style="list-style-type: none"> 機中・期末において適正な監査体制を確立。また、監査人においては会計部分に留まらず、内部統制状況を含めた監査を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の取り組みについて特段の問題は無い。

4-9. 法令等の遵守

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専門学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか ・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己評価結果を公開しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度課題であった、自己点検評価の公開については昨年度の学校関係者評価の結果と合わせて既にWebで公開している。 ・自己点検評価での指摘事項を業務改善に具体的に活用していくことが次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い。

4-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献は行なっているか ・生徒・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・開校当時より中高生ソフトウェアアイデアコンテストを神奈川県教育委員会や横浜商工会議所の後援、多数の民間企業協賛によって毎年実施中。 ・組織的なボランティアの斡旋と推進が次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献、例えば近隣の清掃活動などに取り組んでみてはどうか。続けていくうちに、学生の社会貢献意識も芽生え、社会からの評価も向上するだろう。

4-11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生を受け入れているか ・留学生について、適正な学習が提供できているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年 JICA より数名の留学生を受け入れ。在校生にも良い刺激となっている。 ・海外留学・国際交流制度の整備が次への課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、外国人と一緒に仕事をする機会が増加することをにらみ、国際化への対応も重要。

以上